電報

●閣議と訓電（廿三日東京發）

二十日の閣議に於て決定せる對支要求案に就ては二十二日加藤外相參内して愈上奏御裁可を經たるを以て即日日置公使に對し正式に之に關する訓電を發せりされば日置公使は多分今明日中に陸總長と會見の上之を交付して玆に交渉を繼續するに至るべく而も討論は既に盡き居るを以て新要求案に對しては今後二三回の會見に依りて支那の諾否は明白となるべしと思惟せらる

●電報往復頻繁なり（廿三日上海發）

日置公使と加藤外相の間に電報の往復頻繁にして半官報の報道に依れば日置公使は明日最後の勸告を陸總長に致す筈なりと

●英外相の說明（廿二日倫敦發）

英國下院にて日支交渉經過條件質問に對し外相グレー氏曰く英國の政策は依然日英同盟の條項を遵守し支那の獨立を確保し各國の商業的利益を保全し且つ商工業に對する各國民の機會均等を保つことにせんとす政府は常に日支兩國駐劄の大使と連絡を保ち當地と極東の商業と一致の步調を取りつゝあり議會は政府が支那各地の門戶開放に就き最善を盡しつゝあるを信賴し意を安んじて可なりと

●匪賊と討伐（廿二日芝罘發）

即墨に起れる匪賊討伐隊五百名は十九日夜直ちに出發せるが匪賊は萊陽、海陽縣下にも出沒し一方黃縣に現れんとするより沂山東將軍は濰縣より一大隊を急派せり而して匪賊中には討袁軍あり

●攻勢聯合軍に移る（廿二日倫敦發）

タイムス軍事記者曰くヌーヴ、シャペルの英軍の成功に次ぐ六十高地の占領は極めて重要なる意義あり此の成功に依りて今後英軍の成功は必ずしも激烈なる砲擊を用ひるの要無かるべし英軍は獨軍に優越し且つ英軍亦之を自覺す今や攻勢は獨軍より聯合軍側に移轉するに至れりと

●英國戰報（廿三日東京發）

英國公報、第六十高地に對し敵は依然として猛烈なる逆襲を繼續し二十日午後より更に敵は活動を開始せるも多大の損害を受けつつ擊退されたり

●四國同盟の風說（廿二日東京發）

日、英、露、佛四國同盟を成立せしめて戰禍を寡少ならしめ尙ほ此の同盟の威力を以て戰後世界の平和を保障せしめんとするものゝ由にて本月上旬我國と最も親善なる某國より帝國政府に對し其の意向を照會し來り又其他の一國政府も帝國政府に對し切實に慫慂する所あり爾來關係列國委員に於て協議進行しつゝありとの說あるも未だ信じ難し

●社會黨講和運動（廿二日倫敦發）

獨逸社會黨首領ブライトシャイトは和蘭社會黨首領と協議し英佛社會黨員と連絡を取り交戰國政府を厭迫せんと試みつゝあり獨逸社會黨は平和を希望し獨逸の領土合併に反對意見を有せりと

●我公使の退去を要求（廿三日東京發）

紐育電報に依ればカランザの武將オブレゴン側が駐墨安達公使に退去を要求せりとのことなるが右に就き外務當局曰く、其筋には未だ何等の報道なきを以て其眞僞判明せざるも墨西哥は目下無政府の狀態にて之迄各國公使は殆んど退去せしめられ今日迄依然として殘り居るは我邦と伯剌爾の二國のみの有樣なれば今回我公使に對する立退き要求も一概に之を否認し難し云々

●皇太子殿下（廿三日東京發）

皇太子殿下には昨夜近畿地方より還啓に付き本日參内兩陛下に御對面御晩餐中の御物語りあらせられたり

●參謀長會議（廿三日東京發）

各師團參謀長及び要塞參謀等本日參内拜謁仰付られ終つて參謀本部に於て會議を開き總長の訓示ありたるが尙ほ數日間續會すべしと

●定例閣議（廿三日東京發）

本日は閣議定日に付き加藤外相より對支外交報告に次で之が措置に就き愼重審議し尙ほ內外樞要政務に就き協議せり

●閣員旅行差止（廿三日東京發）

內閣會議は來る二十七日迄會議せざる筈なるが日支交渉の雲行き如何に依りては臨時會議を開くべきに付成る可く長途の旅行は此際見合すべく大隈首相より閣員に通達せりと

●國民黨政務調査（廿三日東京發）

國民黨本日政務調査會を開き國防、對支外交、賣任支出、廢減稅、航路補助等に就き調査するこゝせり

●臺銀增資案（廿三日東京發）

臺灣銀行にては豫ての案件たる增資計畫を實行するに決したれば愈々來る五月下旬臨時株主總會を開き左の增資案を附議すべしと

現在資本金一千萬圓を二千萬圓とする事

增加資本一千萬圓に對する新株十萬株の中九萬株は大正四年五月二十五日現在株主（政府を除く）に對し其の所有株一株に付き新株一株の割にて引受けしめ一萬株は一般より募集す

●會議所法改正（廿三日東京發）

商業會議所法改正實行委員會は本日開會されたり中野委員長は當局に於て速に法改正には何等異議なく特に株金徵集に關する件の如きは全國各地商工業者の機關たる商業會議所の消長に關する大問題なるを以て今期議會には間に合はざるやも計り難きも十二月の通常議會には必ず提出する決心なりとて當局を訪問したる經過を述べ實行委員等もこれを諒とし必ずしも今期議會に提出を强請するに及ばずと云ふに一決し更に他の建議案等に就き協議せり

●夏場所確定（廿三日東京發）

夏場所大相撲は五月十五日に內定せり

●寒氣甚だし（廿三日東京發）

二三日來當地にては臺天打ち續きて氣溫は急に轉下し殊に本日の如きは四十五度に降りさながら冬の如し

●東京株氣配（廿三日東京發）

先日暴落の情力にて東株小甘く以下諸株概して落付き利喰ひ戻しの步調日石配當一割八分の折衷說勢力あり反動高東株軟派の利喰八百餘買ふ大一屈せず防戰能く買ひさらへ下げ渡る我政府大決心結局支那の屈服見越しの勢力あり滿鐵新續高し

●東京米相場（廿三日東京發）

天候兎角不良勝麥作案じ疎ら買ひ十八錢より二十銭あり伊藤信及び東海道筋賣り十一錢あり萩原澤田安直買ひ十三錢に引ける

●通信局長會議

五月上旬東京に於て通信局長會議開催に付同會參列の爲め井村通信局長は來る二十六日出發上京の筈

●財務課長會議

各廳財務課長會議は昨二十三日午前九時より愛國婦人會支部に於て五日間の豫定を以て開會せられたるが臺東廳を除く各廳下財務課長十一名外財務局各係主務等出席高山事務官、阿部事務官、古本稅務官、野呂技師其他番外として臨席し先づ中川財務局長の約三十分間に亘る訓示ありより更に引續き會議に入り諮問事項直稅に關する十四項、地圖に關する事項十を終り午後四時半第一日を終れるが尙每日午前九時より午後四時に至る迄同所に於て引續き開會の筈

●臺銀增資決定

豫ねて懸案中なりし臺灣銀行の增資問題は內地大株主間の意見一致し此程愈々之を實行することに決定せり山東軍所報の如くなるが右は現在資本金一千萬圓を倍額二千萬圓と爲すものにして以上資金は主として對岸及び南洋方面の爲替資金に充つるものなりと

●中の內外貿易（三月）

▲內地貿易　移出一千三十八萬七千六百八圓、移入四百四萬三千九百一圓にして即ち六百三十四萬三千七百七圓の出超なり更に累計は移出二千五百十八萬四千六百十五圓、移入三千五百五十七萬五千二百二十八圓なるを以て之を前年同期に比せば移出に於て二百五十二萬二千六百六十圓增、移入に於て百十八萬二千八百七十四圓減なり故に大體に於て昨年同期よりも好況なるが右は主として砂糖の移出高增加せしに基因す猶各港別移出入高左の如し

本日落成式擧行の新築臺北廳

基隆　移出一萬、移入二萬二千圓
淡水　移出二萬六千九百、移入一萬二千九百
安平　移出一萬九千九百、移入一萬二千九百
打狗　移出一萬、移入一萬二千九百
鹿港　移出一萬、移入一萬二千九百
東港　移出一萬、移入一萬二千九百
媽宮　移出一萬、移入一萬二千九百
計　移出一萬、移入一萬二千九百

右の外に朝鮮貿易として基隆移入一千七十八圓を計上せり

▲外國貿易　輸出六十四萬八千七百七十圓、輸入百三十一萬一千四十八圓にして即ち六十六萬二千二百七十八圓の入超なり更に累計は輸出百九十二萬三千百六十五圓、輸入四百十萬七千八百五十二圓なるを以て之を前年同期に比せば輸出に於て三十六萬二百七十八圓、輸入に於て三十九萬三千七百十九圓減なり故に大體に於て不況の事實は掩ふ可からざるが右は本島經濟界の不況に伴ふ現象に外ならざるが如し猶各港別輸出入高左の如し

	輸出	輸入
基隆	五、五六〇圓	一、二四六圓
淡水	三、八六六	七、八四四
安平	四、六四一	四〇、〇〇六
打狗	四、六四一	三〇、〇〇六
鹿港	六、二三七	三、七四四
後壁港	一、四三一	三、七四四
梧棲	一、四三一	一、九、二四〇
東港	三、七一一	一、九、二四〇
鹿港	一、九、二四〇	一、九、二四〇
媽宮	一、九、二四〇	一、九、二四〇
計	一、九、二四〇	一、九、二四〇

●南洋航路と打狗

▲打狗評議員會議事　打狗內地人組合竝に打狗商工會は二十日の夜公館に於て同時に評議員會を開き十萬議論を信じ前年に比し約四十萬瀉の增收なれば軟風の兆へる折柄內地市場に一層の情氣を加へたるが如く思惟するものゝ如し然し本邦砂糖消費の大局より打算する時は本邦產糖の供給不足は正に二百萬擔內外に達す可く此の不足額は如何にしても外砂の供給を待たざる可からず而して本年以降三月末迄の外輸入高は約六十萬擔にして今後猶百四五十萬擔の輸入を必要とす可く從つて早晩內地市場が直接間接に深甚なる影響を受く可くされど既に爪哇糖は八月積入圓十錢搗みの市況なれば本島の產糖は此の間に於て自由に活躍を試むるを得るを以て樂觀して可なる可きも唯分蜜糖の海外輸出は勿論輸出精製糖原料に對しては未だ不引合ひにて十二圓臺見當迄の奔騰を待たざる可からずと

●打狗倉庫に就て（下）

▲山形工事部所長談

▲以上は主として本船の轉錨や荷役に就てゝあるが、扱て打狗岸壁倉庫を使用することに既に四箇月で、此間稍々經驗研究を積みたるものもある可く、又築港工事も丁度年度始めで之から色々の仕事に取掛る處であるから、此際岸壁倉庫に對する既往の批評に答へて、次の新らしき忠告を受け改良に資するの好時機だと思ふ

▲打狗の岸壁倉庫に就ては、既往約一箇年に涉りて、未だ倉庫も出來ず使用もせぬ內から色々の批評があつたが、余の見る處では、殆んど皆首肯に當らない想像や憶測から出たものもあり、又は自分勝手の御題目を提げて、宇宙の眞理、科學の原則抔と呼號し、其を標準として盲斷を下すものもあつた、當時余等當局としては、全く說明辯解の必要も認めず又餘り取止めぬので、議論をして見樣もないのであつたが、其後漸く荷主や船會社、運送業者等が岸壁倉庫を實際に使用して行くに從ひ、一々の事實が完全に辯解說明して凡ての疑が、恰も雪の春日に遭ふた樣に消滅し、又消滅しつゝあることは蓋し當然の事とは云ひながら、誠に幸ひであるが今試みに批難されたる主要問題を擧ぐれば

一、小手調べの試運轉を見て、上屋倉庫附屬のクレーンは荷役力の點に於て、從來艀船取の半ばにも及ばぬと云ふ樣なことに就て、盛に憶測的議論をされたが、今日に於ては其荷役の輕便なる事と、其荷役力の優越なる事に就ては、『レコード破り』と云ふ驚嘆の聲を發しつゝあるではないか

一、又其荷役賃にも疑を抱いて彼是云つた樣であるが、實際精算の結果は、電氣料金、運轉士給料、苦力賃一切を計算して、從來の艀船荷役の三分の一も掛らないと云ふ統計が出たではないか（是は荷役賃金にして倉數の有無には關せざる分）

一、砂糖を積む高さは十二俵を極限とす、然るに岸壁倉庫は二十俵を積む可き高さと成り居ることは、實際を知らぬ無謀の設計なりと云ふ樣な意味にて、盛んに惡罵と嘲笑を加へたものもあつた、左れど、此十二俵を極限としたのは、何を論據とするか、試に船積に於ける實際の狀態を見よ、彼の通風惡しき船腹の中にすら、三十俵乃至四十俵を積重ねて、打狗より橫濱迄波に搖られ揉まれて、二十日以上も掛つて行くではないか、其所で船ならば三十俵も四十俵も積んで、二十日でも三十日でも構はぬが倉では一週間か十日積置くのに十二俵以上は相成らぬと云ふ理窟が何處にあるか、現今岸壁倉庫では荷主の方から、十二俵は愚か、好んで二十二三俵も疊ねて、倉の窓よりも高く積み居る樣に成つたのは當然の事である

一、假倉庫は低きに過ぎると云ふ批難もありしが、今日では苦力が取扱ふには、最も便利であると褒めて居るではないか

一、假倉庫は岸壁より遠過ぎると云ふ批評も聞いたが、實際は濱線倉庫は對山洋、大蛇潟、小常陸、太刀山、大錦、淡水、安平、打狗、後壁港、梧棲港、東港、鹿港、媽宮港、基隆